

状と必要性の認識を深めてもらうためにも次回以降天文学研究者の出席を懇懇すべきと思っている。このことは今回の参加者全員が賛同していることである。

(b) 上記と共に重要なのは、天文教育に携わっていない理科教育者や、天文に関心がない、あるいは天文は難しい、教えるに、嫌いだ、天文などなければいい、不必要だと思っている教育者（特に小学校の）——必ずしもエクспリシットには表明しないものの、実はこのように思っている教育者が多いのである——の参加である。これは今回の集會に当ても強く望んだ所であるが、残念ながらほとんど実現しなかった。事実このようなことは大変困難なことであるが、筆者らは是非必要だと思っている。何となれば、今回のように天文教育者の会合はもちろん大変意味があり極めて重要であるが、やはり天文教育の改善や発展のためには、天文教育に関心のない教育者の意見もきき、何が発展の障壁になっているのか、除くにはどうすべきか、いかに天文教育の必要性を理解し、認識してもらうかを考えることが欠いてはならないことと思うからである。

(4) 地方的研究会について。このような研究会を頻繁に開くことは天文教育のため不可欠なことではあるが、何分にも全国的規模なのでそれほど屢々開くこともでき

ず、多くても年 1 回が限度であろう。従ってより小まわりがきくような各地方でのいわばローカルミーティングが開かれたら如何であろうか。全国的のがもちろん中心的で地方の会合がここにもち出されるということもあっていいのではないであろうか。

さて、2. に述べたように天文教育あるいは科学教育全般について現在は重大な岐路にあるといってもよい時期に来ている。高校における地学履修者の減少、更に教育行政の要路で、高校の天文を「地学」から「物理」に編入する——「地学」廃止の危惧もなしとしない——との考えもあるやとのことを地学教育者の一部で案ぜられているとも聞いている（筆者らは個人的には天文教育の本旨からこのことは必ずしも賛同しかねるのだが）。

いずれにせよ、今回のような研究会が将来の天文教育の発展に大きな力となることを期待するものである。

終りに、この研究会の主旨に賛同され、その貴重な施設の使用を快く許可せられた駿台学園高等学校長瀬尾秀彰氏および学校当局、ならびに種々のお世話を頂いた教職員の方々、更に会期中のいろいろな仕事を高校生とは思えぬほどよく手伝って下さった同校生徒諸君に心から感謝申し上げる次第である。

また、財政的にこの研究会の開催を援助して下さいった科研費総研の代表者の方々に厚く御礼を申し上げる。

雑 報

学術会議の近況

早川幸男

去る 10 月 20～23 日に日本学術会議第 103 回総会、第 4 部会等が開かれた。決定事項等は月報に掲載されるから、本稿では議論中の身近な問題をお知らせして、皆様御意見をうかがいたい。

(1) 日本の学術研究動向。研連委員や関係学会の手をわずらわしてアンケートを集め、それに基いて専門毎、部毎の動向が執筆された。第 4 部は 12 専門に分れ、天文学は物理科学の項にまとめられている。この項は中嶋貞雄会員によって執筆され、超新星爆発等の最新の成果にも言及し、これ以上うまくまとめられない展望を与えている。編集作業に参加している一員として御協力に謝意を表すると共に、出来上りを期待して頂きたい。ただし、編集段階でお化粧するので、原稿に見られるおもしろさは減るであろう。

(2) National Report の印刷費。IUGG 等の国際学術団体は加盟国内委員会に National Reports の提出を求めていた。学術会議はこの印刷経費の一部を負担していたが、本年度はそれも削られてしまった。この事実は国際交流を担当する第 6 常置委員会も承知していなかった。これは国際交流を盛んにしようとする学術会議の方針に反する措置であるので、第 4 部は十分な経費を確保するよう要望することにした。

(3) 基礎科学研究推進機構の設置。基礎科学分野において恒常的に優れた若手研究者を確保し、かつ大学の人事交流を促進するため表記の機構（仮称）を設置する勧告案を第 4 部が提案することにした。この機構では、学振特別研究員終了者等を主な対象として、大学等を横断して比較的長い任期をもつ研究員を採用し、適当な研究機関に受け入れてもらう。これによって若手研究者に励ましを与え、世代交代の高い水準を維持して行い、かつ大学等の体質改善に役立つことを期待している。この案を各部で検討してもらい、来年 4 月の総会で勧告として承認を得るようにしたいので、研究者各位の建設的意見が寄せられることを希望する。

(4) 国立地図博物館の設立。地図・画像等の収集、整理、保存を行い、地理情報のデータ・ベース化や図的解析法、表現法等の研究を実施する共同利用機関を設立する案である。これも関係者の検討を経て勧告にもって行くよう、第 4 部として努力する。

(5) 地球・惑星物質科学長期研究計画。鉱物学研連から提出された検討依頼である。宇宙物質の研究を含み、研究者養成から研究所設立までを目標とする長期計画で、天文学や宇宙空間科学と密接に関係すると思う。今回の第 4 部会では十分検討する暇がなかったが、関係研連で検討する価値があるものと思うので、この機会に紹介して置く。

(6) 太陽地球系エネルギー国際協同研究計画 (STEP)。これの実施案は夏の第 4 部会で基本的に了承されたが、ICSU の承認を待って次の総会に提案することにした。なお関連のある IGBP も並行して進めるよう付言してある。